

羽幌町 郷土資料館

開館期間 5月1日～10月31日 休館日 毎週月曜日(祝日の時は火曜日)
開館時間 午前10時～午後4時 入館料 一般:220円 高校生以下:無料



羽幌町教育委員会

お問い合わせ先

☎ 0164-62-4519 5月～10月 ☎ 0164-62-1178(社会教育課)

1億年前のはぼろ

白亜紀層から産出する1億年前のはぼろの化石類は保存状態がよく「ハボロハナ化石」「アンモナイト」「ハボロフォカエナトヨシマイ」等動植物の化石を展示してあります。

デスモステルスの歯



ハボロハナ化石



ハボロフォカエナトヨシマイ



はぼろの あけぼの



チライベツ遺跡

チライベツ遺跡から発掘された擦文時代末期の土器・石器を展示し、天売・焼尻遺跡から発掘された縄文式、オホーツク式土器・石器を対比させて展示。

苦難の開拓

明治時代に移住した先人の苦難の道をしのぶ「開拓小屋」と砂金堀り道具を展示してあります。



▲復元した「開拓小屋」

明治末期の羽幌市街



開拓と 生活の歴史

にしん漁とにしんかすの製造



▲鯨最盛期の荷揚



鯨は春告魚と呼ばれ、本町発展に与えた影響は大きかったが、現在は幻の魚となった「にしん漁」を学ぶ資料を展示してあります。

稲作への転換



▲田植え(稲植え)



明治27年、富山県・福井県から団体移住し熊笹や大樹を開墾した移住者の米への強いあこがれは水稲耕作への転換をはかる。

炭砒の歴史



▲坑外輸車路(6トントローローコ)

灰と煙の少ない「羽幌炭」として知られた羽幌炭砒の採炭や鉄道・生活・スポーツ・教育の足跡を顧みます。

食・住生活



居間と流し台を復元し、食・住のありさまと歴史を展示してあります。

大正12年の羽幌市街



藤 本間家の 資料

佐渡で指折りの資産家であったが明治26年に羽幌に移住し、酒造業を営んだ。資料は当時のものも含め本間家の生活の貴重なものが多く、その一部を展示しています。



▲内部

史上最大級の 化石

白亜紀後期の地層から発見されたイカ類、コウモリダコ類の下顎の化石。両方とも史上最大級の大きさで、ハボロダイオウイカは下顎に基づく記録としては、ツツイカ類最古のものです。



▲ヒキダコウモリダコの復元図(小学生120cm)



▲下顎の化石(約8000万年前)



▲ハボロダイオウイカの復元図(小学生120cm)



▲下顎の化石(約8500年前)

画像提供:北九州市立自然史・歴史博物館

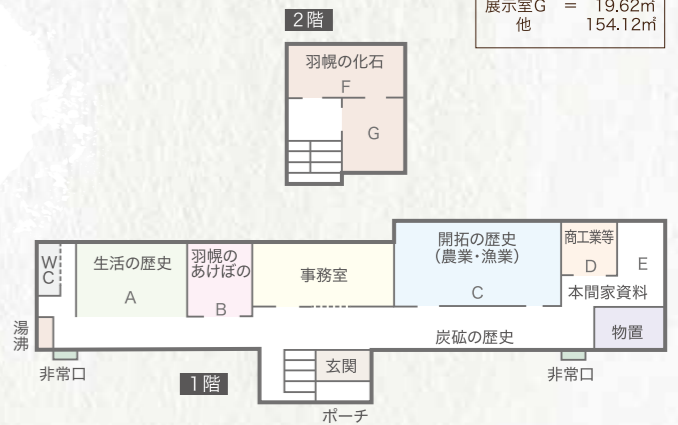
昭和4年の羽幌市街



羽幌町郷土資料館 平面図

開館 平成元年5月1日
構造 コンクリートブロック造り
延面積 341.32㎡

展示室A	=	34.02㎡
展示室B	=	22.68㎡
展示室C	=	58.86㎡
展示室D	=	12.96㎡
展示室E	=	14.58㎡
展示室F	=	24.48㎡
展示室G	=	19.62㎡
他	=	154.12㎡



北海道苫前郡羽幌町南町
20番地の1



平成28年の羽幌市街

